

8/15-8/21 聖書日課と分かち合い

8月15日(月) 歴代誌下 36:5~8 ヨヤキムの治世に

5 ヨヤキムは二十五歳で王となり、十一年間エルサレムで王位にあった。彼は自分の神、主の目に悪とされることを行った。6 その彼をバビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、青銅の足枷をはめ、バビロンに引いて行った。7 ネブカドネツアルは主の神殿の祭具類もバビロンに持ち帰り、バビロンにある彼の宮殿に納めた。

8 ヨヤキムの他の事績、彼の行った数々の忌むべきことおよび彼に起こったことは、『イスラエルとユダの列王の書』に記されている。その子ヨヤキンがヨヤキムに代わって王となった。

主の目に悪とされることを、ことごとく行った王の一人であるユダの王ヨヤキムです。その結果、ダビデ王家とエルサレム神殿は崩壊へと向かいます。神の民として、悪に手を染め神を裏切ります。人間の歴史は現代に至るまで、何一つ変わることなく繰り返されています。主は、聖書を通して私たちに、いつも静かに主の望まれることを語って下さっていると思います。

8月16日(火) 詩篇 137:1~9 バビロンの流れのほとりに座り

1 バビロンの流れのほとりに座り

シオンを思って、わたしたちは泣いた。

2 豎琴は、ほとりの柳の木々に掛けた。

3 わたしたちを捕囚にした民が

歌をうたえと言うから

わたしたちを嘲る民が、楽しもうとして

「歌って聞かせよ、シオンの歌を」と言うから。

4 どうして歌うことができようか

主のための歌を、異教の地で。

5 エルサレムよ

もしも、わたしがあなたを忘れるなら

わたしの右手はなえるがよい。

6 わたしの舌は上顎にはり付くがよい

もしも、あなたを思わぬときがあるなら

もしも、エルサレムを

わたしの最大の喜びとしないなら。

7 主よ、覚えていてください

エドムの子らを

エルサレムのあの日を

彼らがこう言ったのを

「裸にせよ、裸にせよ、この都の基まで。」

8 娘バビロンよ、破壊者よ

いかに幸いなことか

お前がわたしたちにした仕打ちを

お前に仕返す者

9 お前の幼子を捕えて岩にたたきつける者は。

主を愛していても苦難は訪れます。国全体に悪が満ちて神さまの裁きが下り、国は滅ぼされ、「われら」（作者とエルサレム神殿付きの歌手と思われる）はバビロンに捕囚として連れて行かれました。主への賛美が心の中でしか行えない状況の時にあっても、私たちは賛美することを怠ってはいけなんでしょう。神さまの赦しと愛によって私たちは生かされています。人の領域の裏切りにも負けることもあるでしょう。でも神さまはいつでも共にいて、私たちの悲しみに寄り添って下さっています。主に立ち返ることを忘れない限り。

8月17日（水）サムエル記上 16:7 容姿ばかりに目を向ける世界の中で

しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」

ダビデに油が注がれるこの聖書箇所はあまりにも有名です。そして、そのみ言葉に私たちは、さまざまな思いを巡らし、反省し、自分の行いを振り返ることとなります。「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」、頭では理解していても、実際私たちはどうでしょうか。目に映ることの中には、肩書きや学歴もあると思われます。これらのことに惑わされることは絶対ないと言いきれない愚かさを、聖書のみ言葉は教えて下さっているのではないのでしょうか。

8月18日（木）詩篇 9：11 御名を知る人はあなたに寄り頼む

主よ、御名を知る人はあなたに寄り頼む。

あなたを尋ね求める人は見捨てられることがない。

「貧しい人」の詩編と呼ばれる章ですが、「貧しい人」にこそ神さまは介入して下さいます。「有限な弱い存在の人間」は、神の大いなる愛の前に跪き、裁きを待ち望む時、見捨てられることはありません。

8月19日(金) 詩篇 73:24 神の御計らいによって導かれる

あなたは御計らいに従ってわたしを導き

後には栄光のうちにわたしを取られるであろう。

難解と言われる章であり、さまざまな解釈があります。人への憎しみ悔しさは全て神さまに預け、私たちは自らの心の中で増幅させてはいけない、と教えて下さっているのでしょうか。徹底的に神に自分を捧げ尽くして、自分は無に帰してしまうということをすべきなのでしょう。

8月20日(土) マタイ 4:4 人はパンだけで生きるものではない

イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

悪魔の誘惑に対して弱い私たちが、信仰を見失うことのないようにと語って下さっています。荒野における経験は、食物がなくなり神の護りを疑うという事態を引き起こします。そして、神学的観点からの「悪魔からの試み」に対してイエスさまは「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と悪魔を打ち破ります。神と悪魔の表裏一体の存在を私たちは常に意識し、このみ言葉を忘れることのないようにしたいと思います。

8月21日(日) ダニエル 1:1~21 それでも神さまに

1 ユダの王ヨヤキムが即位して三年目のことであった。バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した。2 主は、ユダの王ヨヤキムと、エルサレム神殿の祭具の一部を彼の手中に落とされた。ネブカドネツアルはそれらをシニアルに引いて行き、祭具類は自分の神々の宝物倉に納めた。

3 さて、ネブカドネツアル王は侍従長アシュペナズに命じて、イスラエル人の王族と貴族の中から、4 体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある少年を何人か連れて来させ、カルデア人の言葉と文書を学ばせた。5 王は、宮廷の肉類と酒を毎日彼らに与えるように定め、三年間養成してから自分に仕えさせることにした。

6 この少年たちの中に、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤの四人がいた。7 侍従長は彼らの名前を変えて、ダニエルをベルテシャツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザルヤをアベド・ネゴと呼んだ。8 ダニエルは宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し、自分を汚すようなことはさせないでほしいと侍従長に願い出た。9 神の御計らいによって、侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした。10 侍従長はダニエルに言った。

「わたしは王様が恐ろしい。王様御自身がお前たちの食べ物と飲み物をお定めになったのだから。同じ年ごろの少年に比べてお前たちの顔色が悪くなったら、お前たちのためにわたしの首が危くなるではないか。」

11 ダニエルは、侍従長が自分たち四人の世話係に定めた人に言った。

12「どうかわたしたちを十日間試してください。その間、食べる物は野菜だけ、飲む物は水だけにさせてください。13 その後、わたしたちの顔色と、宮廷の肉類をいただいた少年の顔色をよくお比べになり、その上でお考えどおりにしてください。」

14 世話係はこの願いを聞き入れ、十日間彼らを試した。15 十日たってみると、彼らの顔色と健康は宮廷の食べ物を受けている

どの少年よりも良かった。16 それ以来、世話係は彼らに支給される肉類と酒を除いて、野菜だけ与えることにした。

17 この四人の少年は、知識と才能を神から恵まれ、文書や知恵についてもすべて優れていて、特にダニエルはどのような幻も夢も解くことができた。18 ネブカドネツアル王の定めた年数がたつと、侍従長は少年たちを王の前に連れて行った。19 王は彼らと語り合ったが、このダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤと並ぶ者はほかにだれもいなかったので、この四人は王のそばに仕えることになった。20 王は知恵と理解力を要する事柄があれば彼らに意見を求めたが、彼らは常に国中のどの占い師、祈禱師よりも十倍も優れていた。21 ダニエルはキュロス王の元年まで仕えた。

1 章 8 節で「ダニエルは宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し、自分を汚すようなことはさせないでほしいと侍従長に願い出た。」とあります。ダニエルはバビロンの教育とバビロンの名前を与えられます。しかし、自分はユダヤ人であり、イスラエルの神を信じる者であることを貫きました。信仰と祈りと勇気の人であったと言われていています。ダニエル書を通しての 6 回のショートメッセージから、新たなみ言葉をいただきましょう。

(担当 : H.I.)